

○	1.	工 事 名	旧中蔵家住宅修理工事		
	2.	場 所	飛騨民俗村		
○	3.	構 造	くれ葺き屋根	切妻造	平 東、西面 庇屋根付き
○	4.	規 模	主屋	160.86	m <sup>2</sup>
			付属便所	3.34	m <sup>2</sup>
			付属流し	8	m <sup>2</sup>
○	5.	工事範囲			

NO	工 事 部 分	面積, 数量等
1	主屋屋根　くれ葺替修理	200㎡
2	下屋屋根　くれ葺替修理　　東西下屋	47.50㎡
3	便所、流し屋根　くれ葺替修理	12㎡
4	土台、板壁　修理	
5	木製建具修理	各所

○ 1. 総 則 この特記仕様書は、工事の作業基準を示すもので、記載なき部分、及び疑問を生じたる場合は、全て係員と協議の上施工する。

(係員とは、高山市観光課担当者、飛騨民俗村担当者、及び工事監理者を言う)

図面、特記仕様書に記載されている事項以外は、国交省大臣官房営繕部及び住宅金融公庫監修の建築工事共通仕様書最新版による。

○ 2. 工事方針 本建物の修理工事に当たっては、本建物の原完成時の形態に準じて施工する事を原則とし、既存部分の寸法、材質、施工方法は、忠実に旧来の当建物に倣うものとする。

指定文化財の修理は、工法、材料等在来に倣う所が多く、在来部分の寸法、工法、材料継手、仕口等の工法の調査は、係員に全面協力する事。

○ 3. 施工者選定 施工者の選定にあたっては、特殊工事であり既存同様の施工経験が必要であるため、くれぐさの経験者による施工が求められる。

従って本屋根葺替の施工は、相当の技能を有し、高山市担当者及び工事監理者が認めた者に施工の必要がある。

- 4. 使用材料 本工事に使用する材料は、全て係員の承認を得て使用する。  
特にくれ材については充分なる乾燥材にて形状良好材を使用する。  
又木材については充分なる乾燥材で強度的に充分な物を使用し、既建物の同位置に使われているものを参考に決定する。
- 5. 施工図等 解体時に於ては、必要に応じ、修理部分を事前に実測し、実測図を作成し検討をする。又、完成時の実測図も作成する。  
又、解体時の写真、施工途中の工事写真は整理の上係員に提出する。
- 6 安全対策 工事施工にあたり、現場周辺も含め、人的物的被害を及ぼす事の無い様に仮設、養生も含め、充分なる対策を行う。  
又、火災保険等を含む建設関係保険は必ず設定する。

○ 1. 適用 修理工事に於ては必要に応じて各種の仮設を行う。  
 なお、来場の観光客に迷惑を掛けずに飛騨民俗村担当者、工事監理者と話し合いの上施工する。  
 道路占有などの届け出について速やかに行うこと。  
 なお、シート、仮囲い等の色についてはなるべく目立たないものを使用する。

- 2. 仮 設 工  
 (仮 囲) バリケード 仮囲い H = 3.0 m  
 (仮 小 屋) 丸太組シート貼 丸太トタン貼  
 (現場事務所) プレハブ製 建物内事務所  
 (下 小 屋) 丸太トタン貼 建物内  
 (外部足場) 鋼製枠組 屋根足場 角材 1 本組 脚立  
 ( W : 900シート貼 有 無 )  
 (内部足場) 脚立 鋼製枠組 丸太抱足場 ローリング  
 (材料保管) 屋外仮小屋 野外 屋内指定場所  
 (養 生) 当て板 シート掛 (屋内の雨漏り養生)  
 (設 備) 給排水管 水栓等移送  
電気及び自火報の移動、復旧 (空調室内機、屋外機共)

○ 1. 材 料 取替材、新補材については原則として、内地材にて旧来と同種類、同等材とし、旧形、旧工法を踏習する事とし、使用箇所により心持材、心去材の区分をし使用する。

注一該当する部分は○印、また、材種材厚等は角囲みとする。

飛騨民俗村 民家修理工事	旧中蔵家住宅	特記仕様書 (1)	(縮尺)	一級建築士事務所 岐阜県知事登録 第6923号 協同組合 飛騨設計センター 高山市上三之町29番地 管理建築士 大野二郎	(担当)	旧中蔵家 1 一
--------------	--------	-----------	------	--	------	-------------

○ 2. 工 法 旧来の建物建設時の工法に倣う事を原則とする。但し、不明なる場合は同時代の工法を参考に行う。  
垂木と小舞の緊結は丈夫な縄による。  
また、部分的には番線による補強緊結を行う。

○ 3. 防 腐 処 理 軸組.床組.小屋組等、指示箇所に2回塗りとする。  
又小舞の取り換え材は、塗装の上、油煙による被せを加える。

防腐剤 キシラデ<sup>®</sup>、キシラデ<sup>®</sup>コール、 クレオソート、 オイルステイン  
アリゾナ油剤、 その他

○ 4. 補 強 構造上、旧来工法にては不完全と認められる部分は、係員と協議の上、部分削り、埋木、そえ木、金物等を用いて補強する。  
補強材は旧材同等の塗装をする。

○ 5. 使 用 材

No.	使用部分	寸 法	材 種				等 級						備 考
			桧	松	姫子松	その他	無節	極上小	上小	小節	1等	2等	
1	く れ	厚5～11				栗 ○							へぎ材
2	長 く れ	厚5～11				栗 ○							へぎ材 長さ900～1200
3	破 風 板	36*210 30*180				杉 ○				○			
4	垂 木	60*75 60*60		○	○	栗 ○					○		3m・4m
5	土 台	180*150	○			栗 ○					○		
6	小 舞	60*15（標準）	○		○	栗 ○					○		塗装+油煙 燻し
7	広 小 舞	115*21	○		○						○		
8	猿 子	80*90				栗 ○				○			
9	壁 板	厚15		○	○						○		
10	杉 皮												市販品
11													

〔5〕 屋 根 工 事

1. 茅葺き

材 料 良質な茅材を使用する。  
工 法 ・ 平部分  
茅葺きの厚さは約70cmとする。  
縫い木とヤナカをぬい縄にて縫うと同時に あいかけにて充分に締めあげる。  
・ 棟部分  
棟さお、烏おどり、水はり及び藤かけの取付けを行う。  
棟さおの上に烏おどりを渡し、水はりとは烏おどりを亜鉛鍍金鉄線8、12番にて緊結し、ねそと鉄線が隠れる様にむすぶ。  
棟茅の妻側に出ている棟さおと藤かけも同様に緊結する。

○ 2. くれ葺き

工 法 屋根小舞の上に横方向は四枚目踏目地、縦方向は六分の一葺足（約150）にて下より葺き上げ、置石押えとする。棟部分は特に防水機能を高める。  
又、壁取合い部分は上部妻屋根下でさらに5枚重ね、棟部分は6枚重ねの上に長くこれを重ね置石とする。  
  
今工事に於て再使用可能な樽材は、選択して整備し、加工を施し、再使用する  
  
〔材 種〕 栗へぎ材  
〔材 厚〕 5～9mm  
〔材 巾〕 140～180 縦部分削り合わせ  
〔材 長〕 720～800 棟部分：長くれ 900～1200  
くれ押え割木 桧Φ150～90\*4m 分割

〔6〕 板 金 工 事

○ 1. くれ屋根 茅・くれ棟覆い部分、くれ壁取合い部分の形状寸法については図示及び指示による。

材 料 カー鉄板 亜鉛引きトタン板 鋼板 耐摩カー板 銅板  
0.3 0.35 0.4 0.5 1.6 2.3

工 法 ・ 棟茅葺き下にて屋根を覆う。棟木との緊結は鉄線による。  
・ 棟くれ葺き部分で屋根を覆う。上に長くれを重ね置石とする。  
・ くれ屋根（軒下以外）下葺きはカー波トタン（丸波 t0.25）とし十分重ねをとる。  
防水紙は、ゴムアスファルト巻き製品を用い、重ね張りとする。

〔7〕 左 官 工 事

1. 種 類 当工事真壁造左官壁の種類は下記のとおりとする。

〔種 類〕 土壁 黄（鼠）大津壁 漆喰壁 ジュラク壁 モルタル壁

2. 大津壁.土物漆喰壁

① 下 塗 泥土に藁すきを混入したものを小舞下地に塗り、貫と平坦に壁付する。これに用いられる材料は、普通川底の泥土や粘土、又荒木田とする。すきは打藁5cm位とする。  
乾燥後、同一土にて裏返しをなし、凸凹直しのためむら直しを行う。

令和 7 年度

注－該当する部分は○印、また、材種材厚等は角囲みとする。

飛騨民俗村 民家修理工事

旧中藪家住宅

特記仕様書（2）

（縮尺）

一級建築士事務所 岐阜県知事登録 第6923号  
協同組合 飛騨設計センター  
高山市上三之町29番地 管理建築士 大野二郎

（担当）

旧中藪家  
2 一

<div>② 中塗 粘土、及び砂を4対6の割合に揉すきを適量に混ぜた土で、貫面より9mm厚に平らに塗布する。又、貫伏と称し、寒冷沙を貫と土の間に塗り込む。又、細クシにてこした「ノロ」を生濁き時に撫で上げる。すきは麻すき、さらしすき。</div> <div>③ 上塗 仕上げを意味し、上塗りに用いる材料によって、大津壁、漆喰土物壁等の種類に分かれる。</div> <div>④ 大津壁 海苔を用いず、石灰に粘土、及びすきを混ねりしたもので、粘土の色により各種の名称がある。<div>例 黄大津、茶大津、鼠大津</div></div>		<div>○ 2. キシラディコール塗<div>2色、又はそれ以上の色を混合にて使用する。一般には、建方、組立以前に塗布し、組立後仕上げ塗りをする。</div></div> <div>3. 紅柄<div>① 材料,工法<div>[紅 柄] 従来の衆造古風高尚付粉、又は紅柄粉、合ばいを使用。<div>[黒 色] 松煙、又は黒色細粒粉使用。</div>上記の2種類、又はそれ以上のものを混合練り合わせ、水（又は酢酸）にて溶き、適当なる濃さで、木材に布で塗布し拭き取る。充分乾燥した後、えの油にて布付け拭きを行う。</div></div></div> <div>4 防火塗料 木部指定箇所には防火難燃塗装を施す。又、キシラデコール等で着色したものはその上に塗装する。<div>① 材料 木質用難燃塗料 セルフフレッシュ（一液湿気硬化型ウレタン樹脂、淡黄色液体）<div>② 工 法<div><div>● プライマー塗布（ローラー刷毛、スプレー） 0.1kg／㎡</div><div>● セルフフレッシュコート塗布 4回塗 各0.15kg／㎡（ローラー刷毛、スプレー）</div><div>● トップコート塗布（ローラー刷毛、スプレー） 0.15kg／㎡</div><div>● 養生 常温 24時間以上</div></div></div></div></div>					
<div>3. 漆喰壁 石灰、又は貝灰に海苔（角又類）及びすきを混合練したものを漆喰という。<div>下地組は大津壁、土物壁も同一であるが、木摺、及びすぐり芽材を小舞縄（細縄）にて組み、荒壁から塗り付ける。<div>漆喰塗調合については、旧来の調合による。又、諸材料は角又4.7kgに対して、水、約115リットルを用いて充分煮沸溶解し、3厘目櫛にて濾過し、溶液の熱い間にすきを混合し、この溶液をもって砂類及び灰類を鉋にて充分混和する。<div>壁色の仕上は、灰墨、群青、酸化黄、黄土、紅柄、など係員の指示による。</div></div></div></div> <div>4. プラスター 〔種類〕 プラスター石膏、消石灰、すき等を水練したもの。石膏プラスター、ドモイトプラスター(石灰性)</div> <div>5. 下地ボード ラスボード シーjingボード+ラス 木摺+防水紙+ラス 等とする。</div>		<div>[10] 内 部 工 事<div>1 壁板張り 既設仕上材の内、曲がりなど修理を要する部分を撤去し、現状と同等の仕上材にて下地とも現状復旧を行う。又壁～天井の既設見切りも同様に修理部分の現状復旧を行う。</div><div>2 天井板張り 既設仕上材の内、曲がりなど修理を要する部分を撤去し、現状と同等の仕上材にて下地とも現状復旧を行う。又壁～天井の既設見切りも同様に修理部分の現状復旧を行う。</div></div> <div>[11] 設 備 工 事<div>1 自動火災報知設備 修理工事において、既存の機器や配線の移動や取替えが必要な場合は従来方式に倣う。配線材は取り替えをする。</div><div>2 配線設備 修理工事において、既存電線の移動や取替えが必要な場合は一時移設後、現状復旧とする。</div></div> <div>[12] 発生材の処分<div>工事で発生する解体材の処分は、以下の業者にて行うものとする。<div>株式会社佐合木材 高山支店 高山市松倉町2343-1</div></div></div> <div>[13] 週 休 2 日 制 工 事 の 実 施 本工事は、完全週休2日を原則とした週休2日制工事（現場閉所）です。詳細は「高山市発注の建設工事に係る週休2日制工事実施要領」を参照してください。</div>					
<div>○ [8] 建 具 工 事 (修理工事仕様)<div><div>1. 材料 [使用木材] 桧、松、姫小松、杉 修理材は図示、又は係員の指示のものを使用する。又、充分乾燥し、節や傷の無き材料を使用する。</div><div>2. 工法 寸法、仕上程度については旧来のものに倣い修理する。特に仕口についてはほぞ通しや鎌落しなど、詳細について旧来の工法を踏習する。<div>又</div></div><div>3. 塗装 外部建具は、建物本部分色と調和する色とする。</div><div>4 障子 使用材は 飛騨産山中製造の障子紙を使用する。</div></div></div>							
<div>○ [9] 塗 装 工 事<div>○ 1. 塗装<div>・クレオソート ・キシラモン <div>・キシラデコール</div> ・紅殻<div>木部塗装剤：、垂木、小舞、広小舞、板止、破風、さる子の見え掛けり部分を入念に施工する。<div>塗り階数は、全て2回以上とする。</div></div></div></div></div>							
令和 7 年度		注－該当する部分は○印、また、材種材厚等は角囲みとする。					
飛騨民俗村 民家修理工事		旧中藪家住宅	特記仕様書（3）	(縮尺)	一級建築士事務所 岐阜県知事登録 第6923号 協同組合 飛騨設計センター 高山市上三之町29番地 管理建築士 大野二郎	(担当)	旧中藪家 3 ー